みんなの声でつくる「きぬがさ」の暮らし
利用者満足度調査2025結果報告

利用年別：暮らしの変化と期待

【1年未満】新しい生活への期待と行事へのワクワク

入所して日が浅い方は季節ごとの行事を非常に楽しみにしており、個室での寂しさを交流で埋めたいという傾向があります 。

【1～5年】交流が日常の楽しみに

施設生活に慣れ、友人や職員との「何気ない生活」や「一緒に過ごす時間」を一番の楽しみに挙げる方が増えています。

【5年以上】生活への定着と細かな要望

暮らしが安定する一方で、「ご飯の炊き加減」や「細かな清掃」など、生活の質に対する期待的な要望やこだわりが強くなる傾向があります。

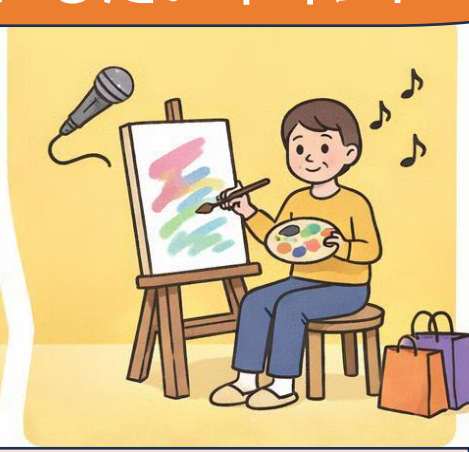
状態像別分析：大切にしたいポイント

【介護が必要な方】食事の喜びと身体への不安

「食べること」が最大の楽しみである一方、健康や体調の変化など、身体的な不安を職員に相談したいというニーズが高いです。

【自立されている方】自由な時間と対人関係の質

自由な外出や趣味（テレビ・読書）を重視しており、それゆえに周囲の噂話やプライバシーの干渉を気にする声が見られます。。



【障害をお持ちの方】新しい生活への期待と行事へのワクワク

季節ごとの行事を非常に楽しみにしており、個室での寂しさを交流で埋めたいという傾向があります。

私たちの楽しみ

みんなが笑顔になる「共通の楽しみ」

夏祭り、獅子舞、クリスマス会などの季節行事、そして毎日の美味しい食事と仲間との会話が生活のハリとなっています。

改善が必要な点と今後の取り組み

改善が必要な「お掃除」の場所

特に「トイレ」や「廊下の隅」の汚れが気になるという声が多く、より気持ちの良い空間づくりが求められています。

「担当制」をもっとわかりやすく

グループ担当制について「誰が自分の担当かわからない」「相談先が不明」という声があるため、顔が見える関係づくりを強化します。

心地よい距離感の人間関係

悪口や干渉を避け、
みんなが穏やかに過ごせるように、
挨拶を大切にする文化をはぐくんでいきましょう。